

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Konchyu Danwakai

埼玉県動物誌に追加するガ類の記録

市川和夫

東京大学農学部附属秩父演習林勤務の文部技官 坂田正哉 および同所の 佐々木和彦の両氏は、1978年から1980年にかけて、埼玉県秩父郡大滝村にある同演習林において、また佐々木氏はさらに奥秩父の甲武信岳などで蛾類や甲虫類の採集調査にあたられ、多数の標本を作成された。

それらの内、標本箱/5箱に配列された蛾類の展シ標本を拝見する機会を得たが、その中に埼玉県未記録の蛾が31種も含まれていることを見出した。

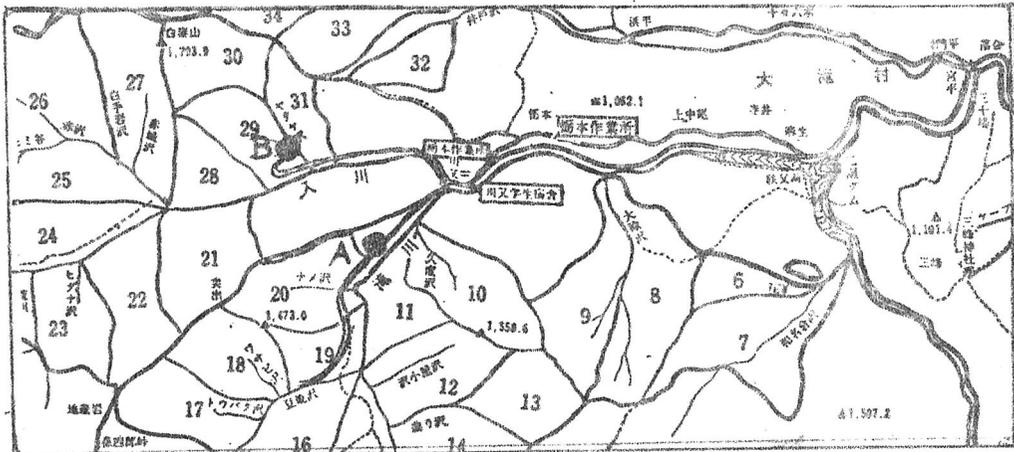
これとは別に、県立秩父農工高校の福島義一先生が秩父郡皆野町等で採集された蛾類の展シ標本を大型ドイツ箱子箱分を見せて下さったが、その中にも4種の本県未記録種が認められた。

これら未記録種については本誌に筆者が報告することを採集者三名とも快諾されたので、ここに記録すると共に感謝申し上げる。

なお、次に記録する蛾類の大部分は、その標本を 井上 寛 博士および 杉 繁 郎 氏に見て頂き、種名についてのご教示を受け正確を期し、2頭以上採集した蛾は採集者より提供を受け筆者が保管している。末筆ながら、常にご指導頂いている 井上・杉の両氏に深謝します。

地名について：(下図参照)

滝川 (海拔 約 700 m) 第20林班のA地点、
 人造林であるが、対岸は自然林である。
 矢竹沢 (海拔 約 1,000 m) 第29林班のB地点、
 再生林 (二次林) のあとを人工植栽した場所である。



以下、種名の前の番号は「埼玉県動物誌 (1978)」およびその後本誌に発表した蛾類に付した、科または亜科ごとの番号の続きである。また、採集者名を省略した記録はすべて坂田および佐々木の両氏が採集したものである。

(1) 埼玉県動物誌に追加する種

NOLIDAE コブガ科

5. ヒメコブガ *Celama confusalis* nami INOUE
滝川 1♀ 25-IV-1979, 滝川 1♀ 23-V-1979.

NOCTUIDAE ヤガ科

(ヨトウガ亜科 Hadeninae)

54. ムラサキヨトウ *Mamestra contigua* DENIS et SCHIFFERMULLER
矢竹沢 1♂ 18-VI-1978.
55. タカオキリガ *Pseudopanolis takao* INABA
滝川 3♂♂ 25-IV-1979.
56. スジグロキヨトウ *Leucania nigrilinea* LEECH
三沢 (秩父郡皆野町) 1♂ 10-IX-1980 (採. 福島義一), 伊豆南部以南に分布する種で、この記録はおそらく最北のものと思われる。埼玉県では、昨年(1979)にやはり暖地から知られるウラギンヨトウ *L. pryeri* LEECHが採集された(本誌No. 27 p. 221)。
57. ウスベニキヨトウ *Leucania pudorina subrosea* MATSUMURA
滝川 1♂ 24-VI-1979.

(カラスヨトウ亜科 Amphipyrinae)

92. セスジヨトウ *Apamea scolopacina subbrunnea* WARREN
滝川 1♀ 24-VI-1979.

(キノカワガ亜科 Nycteolinae)

21. ミヤマクロスジキノカワガ *Nycteola degenerana* HUBNER
滝川 1♀ 25-IV-1979.

(コヤガ亜科 Eustrotiinae)

41. シラクモコヤガ *Elaphria venustula* HUBNER
滝川 2♂♂ 23-V-1979, 滝川 1♀ 20-VI-1978.

(シタバ亜科 Catocalinae)

100. ウスマダラアツバ *Scodopla diffusa* SUGI
滝川 1♀ 21-VI-1979.

(クルマアツバ亜科 Herminiinae)

33. ヒメツマオビアツバ *Zanclognatha subgriselda* SUGI
浦山口 (秩父市) 1♀ 13-IX-1979 (採. 福島義一)
34. シロオビアツバ *Trisateles emortualis* DENIS et SCHIFFERMULLER
矢竹沢 2♀♀ 29-VI-1978.

NOTODONTIDAE シャチホコガ科

92. オオナカグロモクメシャチホコ *Harpyia infumata* STAUDINGER
甲武信岳 3♂♂ 27-VI-1979 (採. 佐々木和彦)、佐々木は同じ時期に奥秩父の大ダルミでも 2♂♂ を採集している。

93. アマギシャチホコ *Suzukia amagisana* MARUMO
滝川 1♀ 25-V-1979.

LYMANTRIIDAE ドクガ科

26. ウスジロドクガ *Dasychira virginea* OBERTHUR
立沢 1♂ 8-VIII-1980 (採. 福島義一)
27. スズキドクガ *Dasychira conjuncta* WILEMAN
立沢 1♂ 8-VIII-1980 (採. 福島義一)

GEOMETRIDAE シャクガ科

(ヒメシャク亜科 Sterrhinae)

25. スミレシロヒメシャク *Scopula umbelaria majoraria* LEBCH 滝川 1♀
23-V-1979, 滝川 2♀ 13-IV-1979, 滝川 1♀ 21-V-1979.
26. クロスジシロヒメシャク *Scopula pudicaria* MOTSCHULSKY
矢竹沢 1♀ 13-VIII-1978, 矢竹沢 1♀ 22-VIII-1978.
27. ベニヒメシャク *Idaea muricata minor* STERNECK
矢竹沢 1♀ 15-VIII-1978.
28. ウスモンキヒメシャク *Idaea denudaria* PROUT
矢竹沢 1♂ 22-VIII-1978, 滝川 2♀ 23-V-1979.
- (ナミシャク亜科 Larentiinae)
102. アオナミシャク *Leptostegna tenerata* CHRISTOPH
矢竹沢 1♀・3♂♂ 22-VIII-1978.
103. ナカモンキナミシャク *Idiotephria evanescens* STAUDINGER
矢竹沢 2♀・1♂ 25-IV-1979.
104. トビモンシロナミシャク *Plemyria rubiginata japonica* INOUE
矢竹沢 1♂ 25-VIII-1978.
105. キオビハカタナミシャク *Thera variata* DENIS et SCHIFFERMULLER
矢竹沢 1♀ 9-X-1978.
106. フダモンコナミシャク *Venusia megaspilata* WARREN
滝川 2♂♂ 25-VIII-1979.
107. ハラキカバナミシャク *Eupithecia tabidaria* INOUE
矢竹沢 1♂ 25-VIII-1978.
108. モンウスカバナミシャク *Eupithecia clavifera* INOUE
滝川 1♀・1♂ 25-IV-1979.
109. ハラアカウスアオナミシャク *Chloroclystis obscura* WEST
矢竹沢 1♀ 18-VIII-1978.
- (エダシャク亜科 Ennominae)
183. チビトビスジエダシャク *Aethalura nanaria* STAUDINGER
滝川 1♂ 23-V-1979.
184. キバネトビスジエダシャク *Myrotoblephara cilicornaria* PUNZELER
滝川 1♀・1♂ 25-IV-1979.
185. ナシモンエダシャク *Garaeus mirandus mirandus* BUTLER
矢竹沢 1♂ 8-VIII-1978.

PYRALIDIDAE メイガ科

(ノメイガ亜科 Pyraustinae)

86. ハナダカノメイガ *Camptomastix hisbonalis* WALKER
矢竹沢 1♀ 22-VI-1978.
87. シロアシクロノメイガ *Hedylepta tristrialis* BREMER
矢竹沢 1♂ 13-VII-1978.
88. クロミスジノメイガ *Hedylepta similis* MOORE
矢竹沢 1♂ 25-VII-1978.
89. キホソノメイガ *Circobotys heterogenalis* BREMER
滝川 2♂♂ 13-VI-1979.

TORTRICIDAE ハマキカ科

15. ハイジロハマキ *Philedonides magnata* YASUDA
滝川 1♀ 25-IV-1979.

以上の結果、埼玉県産のヤガ科は507種、シャクガ科が364種となる。数字の上からだけみると、シャクガ科および小蛾類に関する調査が遅れているといえるので、今後は井上 寛先生のご指導を受けながら会員の皆さんとその類に力を入れて調べていきたい。

羊山公園のセミ

萩原辰之助

羊山公園は秩父市の南東に位置する丘陵で、高い所が285mくらいで起伏している。従ってセミの初鳴日も、盆地の秩父市内より、一週間から二週間くらい遅いようである。勤務の関係で毎日この丘に登っているのので、1980年におけるセミ類の初鳴日を記録してみた。

1. ハルセミ

5月23日、アカマツ林で初鳴を聞く。このセミは以前は秩父盆地のいたる所のアカマツ林で鳴いていたが、今は個体数が激減してしまった。

筆者が一昨年まで勤務していた大里郡江南村の埼玉県立農業教育センター周辺のアカマツ林は、県内でハルセミの多い所として有名であったが、そこの個体数もやはり激減している。

2. ニイニイセミ

7月4日、雑木林やサクラの木で鳴く。このセミも秩父盆地では個体数が少なくなってきた。

3. ミンミンセミ

7月23日、このセミは現在も個体数が多く、鳴いている期間も長い。

4. アブラセミ

7月26日、秩父市内では、ミンミンセミよりこのセミのほうが早く鳴くことがある。

5. ヒグラシ

7月27日、秩父市久那では二週間も早く初鳴を聞いたが、羊山では鳴き出すのが遅い。また、終鳴も早かった。

6. ツクツクボウシ

8月/3日、このセミも個体数が多く、9月/5日(敬老の日)も盛んに鳴いていた。

今年は異常な冷夏であったので、鳴期にも変化があったかも知れない。今はチッチセミが羊山にも生息しているかどうか、初鳴はいっごろかに注意を集中している。

(9月20日 記)

浦和市三室山崎地区のアゲハチョウ2種の知見

田 島 茂

(1) オナガアゲハ

1960年代には、浦和市太田窪において、イヌサンショウ・カラタチから終齢幼虫を二回採集。いずれも被寄生幼虫で、サナギとなって間もなく死んでしまった。

その後、浦和市三室山崎で庭に植栽したアオダモ(チョウセンアカシジミの食樹)のこずえに附着した自然状態のサナギを採集。それは、1978年4月26日に春型♂が羽化した。

1980年8月8日、庭(三室山崎)で夏型の1♀を採集。この個体は、右側尾状突起が破損した個体であった。早速植栽してあるコクサギを調査したところ、♂卵を発見、コクサギで飼育する過程でオナガアゲハ♂頭、カラスアゲハ♂頭ということが判明した(卵では判定しにくい)。

1980年8月16日、降雨の中を附近のカラスサンショウを調査したところ、3齢幼虫を1頭発見、採集し飼育したが9月1日にサナギとなった(体長35mm)。これは頭部の曲った小さなサナギで、寄生されたものと疑問をもっていたが、9月7日に突然死んでしまった。

1980年8月28日、カラスサンショウより1齢幼虫を1頭採集。8月8日に成虫1♀を採集しているのので、この幼虫はまた別の成虫が産卵したものである。カラスサンショウを与えて飼育した結果、9月15日にサナギとなり、10月1日に♀が羽化した。

1980年8月8日にコクサギで採集した卵は、8月12日にフ化、9月7日にサナギとなり、9月20日に1♂が羽化、9月22日・23日にそれぞれ1♀が羽化した。

以上の様に、三室山崎には、筆者が調査したかぎり確実にオナガアゲハが現在も土着している。ただし、自然状態で庭に飛来した成虫は、本年8月8日採集の♀、および9月4日に目撃した♀のみで、非常にま

れな種だと考えられる。

(採集・目撃日)

1978年2月28日(サナギ)、
1980年8月8日(成虫♀・卵)、
1980年8月16日(3齢幼虫)、
1980年8月28日(1齢幼虫)、
1980年9月4日(成虫1♀を目撃)。

(2) モンキアゲハ

1980年8月24日、午前10時40分後ろばねの大破したモンキアゲハの♀が飛来庭のカラスサンショウに産卵。ちょうど長雨が上がり、気温26°C、木が高く産卵数は不明である。

9月3日、午後3時。附近の石関二郎氏宅にある庭の3本のユズの葉に産卵行動中の♀を発見、石関夫妻と共に約30分程観察していたが、この♀個体は尾状突起も完全な成虫であった。やはり木が高く、卵を確認することはできなかった。浦和市では、産卵記録は初めてと思う。

(産卵の記録)

1980年8月24日：カラスサンショウに産卵、
1980年9月3日：ユズに産卵。

また、過去に次のような経験があるので報告する。

1970年の夏、自宅のカラスサンショウより採卵し、室内にてサンショウで飼育して次の羽化成虫を得た。

1♂ 4-X-1970：飼育した年に羽化する、
1♂ 12-IV-1971：春型、
1♀ 14-IV-1971：春型、
1♀ 30-IV-1971：春型、
1♂ 10-IV-1971：春型、
1♀ 3-VI-1971：夏型。

宝登山のヤガ (III)

石塚 勝巳

アツバ亜科 HYPENINAE

212. *Bomolocha stygiana* ヤマガタアツバ 18-V-'68
 213. B. *zilla* ハングロアツバ 18-V-'68
 214. B. sp. ホシムラサキアツバ 18-V-'68, 20-V-'69.
 215. B. sp. マルモンウスミアツバ 21-IX-'68
 216. B. *amica* クロキシタアツバ 27-VIII-'68, 10-VI-'69
 217. *Hypena whitelyi* ホソバアツバ 29-III-'68
 218. H. *belinda* ナカジロアツバ 29-VI-'68
 219.* *Rhynchina columbaris* アトムラサキアツバ 29-VI-'68
 220. R. *similalis* ナミガタアツバ 6-VIII-'69 (小林)
 221. R. *cramboides* トガリアツバ 29-VI-'68, 21-IX-'68
 222.* R. *morosa* シロスジトガリアツバ 15-VIII-'69

クルマアツバ亜科 HERMINIINAE

223. *Edessena hamada* オオシラホシアツバ 29-VI-'68, 10-VI-'69
 224. *Badiza simplex* フジロアツバ 23-VIII-'68
 225. B. *notigera* シラナミクロアツバ 29-VI-'68
 226. *Simplicia nippona* オオアカマエアツバ 29-VI-'68
 227. *Nodaria tristis* ヒゲフトクロアツバ 11♂ 18-VI-'68, 1♀ 18-V-'68
 228. *Zanclognatha griseida* ツマオビアツバ 29-VI-'68
 229. Z. *grisealis* クロスジアツバ 18-V-'68
 230. Z. *innosens* シラナミアツバ 1♂ 18-V-'68
 231. Z. *tarsicrinalis* トビスジアツバ 1♂ 18-V-'68
 232.* *Trisateles emortualis* シロオビアツバ 15-VI-'69
 233. T. *trilinealis* ミスジアツバ 1♂ 18-V-'68, 1♀ 20-V-'69

以上のほか、その後種名がわかった次の記録を、宝登山のヤガ (I) 寄せ蛾記 (22) : 167~171, 宝登山のヤガ (II) 寄せ蛾記 (22) : 181~183 に追加する。

ケンモン亜科 APATELINAE

234. *Apatolea incratata* リンゴケンモン 2-VI-'70
 235.* A. *tridens* オオホソバケンモン 30-VI-'70

モンヤガ亜科 NOCTUINAE

236. *Sineugraphe exusta* カバスジャガ 30-VI-'70
 237. S. *dysgnosta* ウスイロカバスジャガ 15-VIII-'69
 238. S. *longipennis* オオカバスジャガ 15-VIII-'69

カラスヨトウ亜科 AMPHIPYRINAE

239. *Trachea auriplena lucia* オオシロテンアオヨトウ 2-VI-'70 1♀
 240. *Athetis gluteosa* ヒメオビウスグロヨトウ 20-V-'69 1♀
 241. A. *funesta* ウスグロヨトウ 18-V-'68 1♀

242. *Athetis subargentea* エゾウスイロヨトウ 23-VI-'68 1♀
 243.*A. *lugens* コウスイロヨトウ 2-VI-'70 1♂

キノカワガ亜科 NYCTEOLINAE

244. *Lamprothripa hamponi* ネジロキノカワガ 2-VI-'70

シタバガ亜科 CATOCALINAE

245. *Pangrapta trimantesalis* ウンモンツマキリアツバ 2-VI-'70
 246.* *Lophomilia flaviplaga* ミカドアツバ 15-VI-'69
 247.* *Mimeugoa nigropunctalis* クロテンカバアツバ 15-VI-'69

以上、三回にわたり宝登山のヤガを247種記録した。また、すでに記録のあるものとして次のものがある。

248. *Polia mortua* オオチャイロヨトウ 1♂ 27-VI-'63 (ヨトウガ亜科)
 249. *Leucania postica* アカスジキヨトウ 1♂ 27-VI-'63 (ヨトウガ亜科)
 250. *Cryphia obscura* キノコヨトウ 1♂ 27-VI-'63 (キノコヨトウ亜科)
 251. *Pyrrhia intermedia* コモクメヨトウ 1♂ 27-VI-'63 (カラスヨトウ亜科)
 252. *Plusilla rosalia* ギンモンアカヨトウ 1♀ 27-VI-'63 (同 亜科)
 253. *Callopietria duplicans* ヒメツマキリヨトウ 1♂ 27-VI-'63 (同 亜科)
 254. C. *rivularis* キスジツマキリヨトウ 1♂ 27-VI-'63 (同 亜科)
 255. *Pyrrhia umbra* キタバコガ 1♀ 27-VI-'63 (タバコガ亜科)
 256. *Unca culta* トビイロリンガ 1♀ 17-VI-'66 (キノカワガ亜科)
 257. *Siglophora ferreilutea* アオスジコヤガ 1♂ 27-VI-'63 (コヤガ亜科)
 258. *Plusia stenochrysis* シロスジキンウワバ 1♂ 17-VI-'66 (キンウワバ亜科)
 259. *Serrodus campana* ネジロフトクチバ 1♂ 27-VI-'63 (シタバガ亜科)
 260. *Stenograpta stenoptera* ホソツマキリアツバ 1♂ 27-VI-'63 (同 亜科)
 261. *Paragabara flavomacula* キボシアツバ 1♀ 27-VI-'63 (同 亜科)
 262. *Bomolocha melanica* ムラクモアツバ 6♂♂・3♀♀ 27-VI-'63 (アツバ亜科)
 263. *Zanclognatha aegrota* ミツオビキンアツバ 1♂ 27-VI-'63 (クルマアツバ亜科)

これら宝登山のヤガを亜科別の種類数で見ると次のようになる。

ウスベリケンモン亜科 <i>Pantheinae</i>	3	フサヤガ亜科 <i>Euteliinae</i>	2
ケンモン亜科 <i>Apatelinae</i>	1・2	キノカワガ亜科 <i>Nycteolinae</i>	8
キノコヨトウ亜科 <i>Cryphiinae</i>	1	コヤガ亜科 <i>Acontiinae</i>	25
タバコガ亜科 <i>Heliothidinae</i>	2	キンウワバ亜科 <i>Plusiinae</i>	13
モンヤガ亜科 <i>Noctuinae</i>	26	シタバガ亜科 <i>Catocalinae</i>	56
ヨトウガ亜科 <i>Hadeninae</i>	26	アツバ亜科 <i>Hypeninae</i>	12
セダカモクメ亜科 <i>Cucullinae</i>	16	クルマアツバ亜科 <i>Herminiinae</i>	12
カラスヨトウ亜科 <i>Amphipyrinae</i>	44		

5年間継続して月/回ずつの夜間燈火採集を予定していたが、結局3年弱で中断してしまい、採集できずにおわったものもいく種類がある。例えば、*Orthosia nigromaculata* カギモンキリガ は、/969年4月9日に1個体が飛来したが、取り逃がしている。このリスト中、はたしてどれだけが当地に土着生息しているのかは明らかでない。例えば、*Catocala nubila* ゴマシオキシタバ など、宝登山には食樹のフナ類は見当たらないし、採れた個体は大部破損しており、他所から移動してきたものではないかと思われる。

宝登山で最初に燈火採集を行った時からすでに/0年以上も経っている。当時とくらべて

増生も変わっているかも知れない。

今後、機会があればこのリストを基にして、より完全な「宝登山のヤガ類目録」を作成していきたい。なお、リスト中のNo. 227, 230, 231, 233, および240~243については国立科学博物館の穴和田 守 氏に同定を依頼したもので、その標本は同氏が保管している。

(参 考 文 献)

1. 石塚 勝巳 1968 関東地方の低地における Cucullinae 若干の新産地, 蛾類通信54: 600.
2. 市川 和夫 1966 埼玉県における若干のヤガ科の記録, 蛾類通信41: 376.
3. ——— 1967 秩父地方で採集した若干のヤガ, 寄せ蛾記9: 51.

(注) 石塚勝巳氏が本誌に掲載した「宝登山のヤガ」(I)~(III)の目録中、埼玉県動物誌(1978)にもまたその他の報文にも記録がない埼玉県未記録であったヤガは、ノミ種にのぼる(本誌 p. 246 に記録済みのシラクモコヤガとシロオビアツバは重複するのでその中に入れなかった)。念のため、各亜科別に番号を付けて紹介しておくこと次のようになる。 (市川和夫 記)

(ケンモン亜科)	23. 235. オオホソバケンモン (III)	
(セダカモクメ亜科)	37. 65. プライヤオビキリガ (I)	ゴジックの番号は
(カラスヨトウ亜科)	93. 94. セアカヨトウ (I)	県動物誌からの通
	94. 106. シラホシキリガ (I)	し番号、次の数字
	95. 243. コウスイロヨトウ (III)	は「宝登山のヤガ」
(コヤガ亜科)	42. 129. キモンコヤガ (II)	に付けられたもの、
	43. 130. マダラコヤガ (II)	和名の次の () は
	44. 138. ウチジロコヤガ (II)	その種を記録した
	45. 141. カバイロシマコヤガ (II)	目録の番号を示す。
	46. 149. アミメコヤガ (II)	以上の結果、埼
(キンウワバ亜科)	28. 152. オオキクギンウワバ (II)	玉県産のヤガ科は
(シタバガ亜科)	101. 195. ムラサキヒメクチバ (II)	525種となる。
	102. 201. キモンツマキリアツバ (II)	
	103. 210. アトヘリヒトホシアツバ (II)	
	104. 246. ミカドアツバ (III)	
	105. 247. クロテンカバアツバ (III)	
(アツバ亜科)	24. 219. アトムラサキアツバ (III)	
	25. 222. シロスジトガリアツバ (III)	

県南にミドリヒョウモンがもどる?

星 野 正 博

1. ミドリヒョウモン

- 与野市 下落合 1♂ 4-X-'78 (目撃●)
 同 上 1♀ 1-VII-'79 (採. ○)
 同 上 1♀ 30-VI-'79 (写真○)
 浦和・与野での近年の記録は、星野 (1978) 昆虫と自然 13 (13)、市川 (1979) 寄せ蛾記 (26) があり、'78-'79年に9個体を数える。

2. オオウラギンスジヒョウモン

- 浦和市 秋ヶ瀬 1♀ 4-VII-'80 (写真○)
 当日は網がなく採集できなかったが、タンポポに止ったところを二枚撮影し市川氏にも確認してもらった。本県ではノミ年ぶりの記録である。

中津川地方、8月下旬の昆虫

確 井 徹

1980年8月23日、奥秩父の中津川地方で蝶などの昆虫採集を行ったので報告する。

当日は曇り時々小雨というあまり良くない天候だったが、数多くの蝶や甲虫を採集することができた。

9時半に中津川の道路料金所に着き、3km先の「玉冠」と呼ばれる所まで車道を歩きながら採集し、同じ経路を採集しながらひき返して午後2時半にはバス停まで戻ってきた。

記録に使われている記号は前報と同じで、○新鮮、◎中位、●汚損個体を示す。また、「目撃」は確実な目撃を、「確認」は念のため一度ネットインして種を判定した後に逃がしたことを意味し、何も書いてないものは採集した個体である。

チョウ類

- キアゲハ 1♀ ◎
 オナガアゲハ 3♂ ●◎, 1♀ ● (確認)
 クロアゲハ 1♂ ○
 ミヤマカラスアゲハ 1♂ ○, 1♀ ◎
 モンシロチョウ 1♀ ○、玉冠にて採集した。本種は中津川では玉冠より上流の大山沢でも、昨年7月に採集している。
 スジグロシロチョウ 2♂ 2♀ ○
 エソスジグロシロチョウ 1♂ ○、前種と本種は気をつけて採集していたが、本種は玉冠の手前200mほどの所で採集した1頭のみだった。
 モンキチョウ 1♂ ○
 キチョウ 1♂ (夏型) ○, 1♂ (中間型) ○
 トラフシジミ 1♀ ◎
 ヤマトシジミ 1♂ ○
 ルリシジミ 1♀ ○
 ツバメシジミ 1♂ ○
 ミドリヒョウモン 2♂ ◎ (確認)
 ウラギンヒョウモン 1♀ ◎
 コミスジ 1♂ ○
 オオミスジ 1♀ ○
 サカハチチョウ 1♀ ○
 ルリタテハ 1♀ (秋型) ○
 キタテハ 1♂ (夏型) ○ 料金所付近。

- シータテハ 2頭 (目撃)
 ヒメアカタテハ 1♂ ○
 スミナガシ 1♂ ○
 アカタテハ 1頭 (目撃)
 コムラサキ 1♀ ◎
 オオムラサキ 1♀ (目撃) 玉冠にて。
 ヒメウラナミジャノメ 1♂ ○、中津川の集落付近でのみ見られた。
 ツマジワウラジャノメ 1♀ ○
 ヒメキマダラヒカゲ 2♂ ●
 コジャノメ 1♂ 1♀ ○
 ダイミョウセセリ 1♂ ○, 1♀ ◎
 アオバセセリ 1♀ ○
 ホソバセセリ 1♀ ○、料金所から1Kmほど入った所で採集した。この個体しか発見できなかった。
 イデモンジセセリ 1頭 ○ (目撃)
 ヒメキマダラセセリ 1♂ ○
 キマダラセセリ 1♀ ○
 コキマダラセセリ 1♀ ◎

トンボ類

- アキアカネ 1♂ 1♀、多数見られた。
 ハラビロトンボ 1♂、料金所付近で採集した。かなり飛び古したものと思われる。
 シオカラトンボ 1♂
 カワトンボ 1頭 (目撃)、玉冠で羽が透明な個体を目撃したが、採集できなかった。
 ウスバキトンボ 数頭 (目撃)

甲虫類

- 目につく大型種のみを採集した。
 オオチャイロハナムグリ 1頭
 アオハナムグリ 1頭
 アオカナブン 1頭
 アオタマムシ 1頭、玉冠にて。
 ルリツヤハダコメツキ 1頭
 ノコギリカミキリ 1頭
 ヨツスジハナカミキリ 2頭
 アカハナカミキリ 3頭
 ルリボシカミキリ 4頭
 ウスイロトラナミキリ 3頭

ホシジトラカミキリ 1頭
 ホソトラカミキリ 3頭
 シラホシカミキリ 2頭

ヒゲナガゴマフカミキリ 2頭
 ゴマフカミキリ 3頭
 カタジロゴマフカミキリ 4頭

札幌市モ岩山におけるオオムラサキの大発生

巢 瀬 司

1980年7月に札幌市モイワ山において、オオムラサキ *Sasakia charonda* が大発生したので報告する。「オオムラサキが大発生している」という情報は、本種が終令幼虫であったる月中旬ごろから札幌の蝶仲間では知られていたらしいが、筆者は7月7日にR君からその事と採集した150匹余りの成虫を見せられ、その日の午後7時半から3時まで現地で観察を行った。発生地の詳細は蝶の保護の立場からあえて記すことをしないが、筆者が6年前から継続調査しているササウオタマバエの調査地の近くで、食樹のエゾエノキは樹高8mほどの木が本本あるにすぎない。

カメラだけを持って発生地に着き、まず成虫数の多さに圧倒される。地面には羽化に失敗し、正常に羽が伸びなかった個体が7匹ほど見られ、5分間にできるだけ同一個体を二重にカウントしない様に飛ばしう中のものを数えたら、70個体を確認できた。この時点で実際に何個体いたのかは、標本再捕でも行わない限り推定は不可能であった。

現地着30分後、K氏ら3名が捕虫網とカメラを持参して来たので、発生の様子を聞いたところ「今はまた新葉が展開したがる月中旬にはエゾエノキの葉はほとんど食い尽され、おびただしい数のサナギが下草にも着いていて、約2,000個を採集して家で羽化させ、一部は標本にし大部分は他所へ放した」「自分はサナギを300匹くらい採集した」という調子である。

2時半ごろ子供らが小さな網を持って現われ、各人が突に簡単に5~10匹の成虫を採集して虫かご入れるという状態で、幼

虫・サナギそして羽化成虫の正確な数を推定することの不可能を痛感させられた。

今回はオオムラサキに混じって、札幌では通常極めて少ないゴマダラチョウも見られ、オオムラサキとゴマダラチョウの成虫数の比率は約40:1であった。

K氏からはまた「今回のオオムラサキのサナギからはヒメバチが若干出た(5%くらいか?)」が、ゴマダラチョウのサナギからはかなりの数のヒメバチが出た(30%くらいか?)」という話を聞くことができた。

札幌産のオオムラサキは小型であることは衆知のことであるが、今回見られた個体の多くは明らかにさらに小型で、コムラサキ程度の大きさしかない個体も見られた。

今年大発生した場所で、毎年着実に「少数の個体」が発生していたことは確実であるが、筆者の経験ではこの6年間、K氏の話では過去十数年間にこのような大発生はなかったことも事実である。

現地で感じたことの一つは、羽化に失敗し奇型になった個体の比率が、通常よりも多いことがある。しかしあまりに人に荒らされていたため、その比率を出すことは不可能であった。

北海道内にはエゾエノキは、エゾという和名が付いているにもかかわらず意外なほど少なく札幌市やオタル市周辺では他の地域にくらべ比較的多いと言われているものの、それでも希れな木と言えよう。今回大発生した場所以外で、今年大発生があったかどうか正確には解らないが、いくつかの情報からここ札幌市モイワ山の大発生地に限られていたようである。

モンキアゲハの土着に関する資料

加藤 輝 年

埼玉県におけるモンキアゲハの土着の問題については、本誌No. 26 (1979) で碓井徹氏がすでに論じておられるが、その参考資料になると思えるので、飯能市坂石町分(吾野)にある自宅付近でのモンキアゲハの採集・目撃記録を報告する。

採集・目撃者名が省かれているデータは大部分が筆者、一部筆者の家族によるものである。

(1973年)

1♂ 12-V-1973 採集.

(1974年)

lex. 11-V-1974 目撃.
lex. 12-V-1974 目撃.
lex. 14-V-1974 目撃.
lex. 17-V-1974 目撃.
1♀ 18-V-1974 ユズへの産卵を目撃.
lex. 21-V-1974 目撃.

(1975年)

lex. 25-V-1975 目撃.
lex. 26-V-1975 金子記久 目撃.
1♂ 30-V-1975 金子 採集.
2♂ 1-V-1975 加藤・大沢成夫 採集.
1♀ 3-V-1975 金子 採集.
1♂ 5-V-1975 金子 採集.
lex. 8-V-1975 目撃.
lex. 15-V-1975 目撃.
lex. 17-V-1975 目撃.
lex. 25-V-1975 大沢 目撃.
1♂ 2-V-1975 大沢 採集.
lex. 6-V-1975 目撃.
1♂ 7-V-1975 採集.
lex. 8-V-1975 目撃.
3♂ 11-V-1975 大沢・金子 採集.
2♂ 12-V-1975 大沢・金子 採集.
1♂ 1♀ 13-V-1975 大沢 採集.
1♂ 1♀ 14-V-1975 大沢 採集.
1♀ 23-V-1975 採集.
lex. 28-V-1975 金子 目撃.

(1976年)

lex. 19-V-1976 目撃
lex. 7-V-1976 目撃.

(1977年)

1♀ 23-V-1977 採集.

(1980年)

lex. 8-V-1980 目撃.
1♂ 1-V-1980 採集.
lex. 8-V-1980 目撃.
lex. 9-V-1980 目撃.
1♀ 12-V-1980 採集.
lex. 15-V-1980 目撃.
2exs. 17-V-1980 目撃.
lex. 22-V-1980 目撃.
1♀ 23-V-1980 採集.
lex. 24-V-1980 目撃.
1♀ 29-V-1980 採集.
lex. 31-V-1980 目撃.
lex. 3-X-1980 目撃.
lex. 4-X-1980 目撃.
1♂ 採集, 2exs. 目撃 6-X-1980.
lex. 13-X-1980 目撃.
1♂ 採集, 2exs. 目撃 7-X-1980.

吾野付近では、1951年6月11日 顔振峠での記録がおそらく最も古い。以後、散発的に少数の個体が記録されるようになったがひん繫に見られるようになったのは、筆者の知る限り1974年夏からである。次の1975年には、当時ほとんど毎日のように筆者の所に入入りしていた小学生の金子記久君と中学生の大沢成夫君の情報も得ることができ、成虫の出現期に関してはひととおりの成果があった。そのためもあり、個人的理由も重なって、その後ほとんど記録をとらなくなってしまったが、1980年夏にあらためて家族のものにも気をつけてもらい調べたところ、普通に見られることがわかった。出現期は、5月下旬～6月中旬および7月下旬～9月上・中旬の年2回。春にはツツジ類への、夏はクサギ・ヤマユリ・アメリカナデシコ・ホウセンカ・ハナトラノオなどへの訪花を見ている。

食草に関しては、地元にもかかわらずよく調べていない。1974年8月18日のユズへの産卵の記録の他、おそらく1975年、自宅庭の太枝より寄生された越冬ヨウ(さなぎ)

を2頭得たことがあるが、怠慢のためこれはノートに記されていない。

なお、室内飼育では、ユズで順調に育つことを確かめている。

北海道7月下旬のヤガ類

市川和夫

1980年7月21日から7/27日間、北海道各地で蛾類の採集を行ったが、その内のシャチホコ科の採集目録は本誌 No. 29 に掲載した。その後種名の決定ができなっていた若干のヤガ類の標本を 杉 繁 郎 氏に見ていただく機会に恵まれ、ほぼ全種について目録を作成できた。平素ご指導下さる 杉 氏に感謝し、ここに報告する。

(ウスベリケンモン亜科 Pantheinae)

1. ウスベリケンモン *Anacronicta nitida* 天人峡 3♂ 24-VI, 川湯 1♂ 26-VII, 日高 2♀ 1♂ 27-VII.
2. ナマリケンモン *A. plumbea* 天人峡 2♂ 24-VI.
3. カラフトゴマケンモン *Panthea coenobita* 日高 1♀ 3♂ 27-VII.
4. キバラケンモン *Trichosea champa* 勇満別 1♂ 23-VII.

(ケンモン亜科 Acronictinae)

5. アオケンモン *Belciades virens* 日高 1♂ 27-VII.
6. シロケンモン *Acronicta leporina leporella* 勇満別 1♂ 23-VII, 日高 1♂ 27-VII.
7. サクラケンモン *A. strigosa aducta* 天人峡 1♂ 24-VI.

(モンヤガ亜科 Noctuinae)

8. マエジロヤガ *Ochropleura plecta glaucimacula* 勇満別 1♂ 23-VII.
9. ミヤマアカヤガ *Diarsia brunnea* 勇満別 1♂ 23-VII, 川湯 1♀ 2♂ 26-VII.
10. タンボヤガ *Xestia ditrapezium orientalis* 川湯 1♀ 26-VII.
11. オオアオバヤガ *Anaplectoides virens* 日高 1♀ 27-VII.

(ヨトウガ亜科 Hadeninae)

12. オオシラホシヨトウ *Polia nebulosa askolda* 勇満別 1♂ 23-VII, 川湯 1♂ 26-VII.
13. オオシモフリヨトウ *P. goliath* 川湯 1♀ 26-VII.
14. シラホシヨトウ *Mamestra persicariae japonibia* 天人峡 1♂ 24-VI, 川湯 1♀ 1♂ 26-VII, 日高 2♂ 27-VII.
15. フタオビキヨトウ *Mythimna turea limbata* 日高 2♂ 27-VII.
16. オオフタオビキヨトウ *M. grandis* 十五島公園(札幌市南区) 2♂ 22-VI, 川湯 1♂ 26-VII, 日高 3♂ 27-VII.
17. マダラキヨトウ *Leucania flavostigma singularis* 川湯 1♂ 26-VII, 日高 1♂ 27-VII.

(カラスヨトウ亜科 Amphipyrinae)

18. カドモンヨトウ *Apamea crenata* 川湯 1♀ 26-VII.
19. オオアカヨトウ *A. lateritia* 天人峡 1♂ 24-VI.
20. キタショウブヨトウ *Amphipoea fucosa* 日高 2♂ 27-VII (交尾器検続)
21. キグチヨトウ *Phlogophora beatrix* 川湯 1♀ 26-VII.

22. シラオビアカガネヨトウ *Euplexia illustrata* 川湯 2♀ 26-VI, 日高 1♀ 18
27-VI.
23. モンキアカガネヨトウ *E. aureopuncta* 天人峽 2♂ 24-VI.
24. シロスジアオヨトウ *Trachea atriplicis gnoma* 日高 2♂ 27-VI.
25. ハガタアオヨトウ *T. tokiensis* 川湯 1♀ 26-VI, 日高 1♂ 27-VI.
26. ギシギシヨトウ *Atrachea nitens* 十五島公園 1♂ 22-VI, 日高 1♂ 27-VI.
27. ツマジロカラスヨトウ *Amphipyra schrenckii* 日高 1♂ 27-VI, トウヤ湖 1♂
28-VI.
28. *Athetis* sp. (ウスイロヨトウの一種) 日高 1♀ 27-VI.
29. マルモンシロガ *Sphragifera sigillata* 日高 2♂ 27-VI.
30. アイノクロハナギンガ *Chasminodes aino* 日高 2♀ 1♂ 27-VI.
(リンガ亜科 *Westermanniinae*)
31. ハネモンリンガ *Kerala decipiens* 勇滝別 1♂ 23-VI, 天人峽 2♂ 24-VI.
(コヤガ亜科 *Eustrotiinae*)
32. スジシロコヤガ *Lithacodia falsa* 勇滝別 1♀ 1♂ 23-VI.
33. シロモンコヤガ *L. fentoni* 天人峽 1♀ 24-VI.
(シタバガ亜科 *Catocalinae*)
34. カクモンキンタバ *Chrysorithrum amatum* 勇滝別 1♂ 23-VI (f. *rufescens* より
はるかに赤茶色がいちじるしい個体), 川湯 2♂ 26-VI.
(クルマアツバ亜科 *Hermininae*)
35. ウスグロアツバ *Zanolognatha fumosa* 十五島公園 1♂ 22-VI.
36. クルマアツバ *Paracolax glaucinalis* 川湯 1♀ 25-VI.
37. ナガキバアツバ *Herminia gryphalis* 川島 1♀ 26-VI.

奥武蔵のカラスザンショウについて

確 井 徹

県内でのモンキアゲハの土着について考える上で重要と思われるカラスザンショウの分布を調べるため、所沢昆虫同好会の宮倉清氏のご案内で1980年10月26日に奥武蔵一帯を訪れた。

過日、宮倉氏より、いわゆる「奥武蔵グリーンライン」に沿ってカラスザンショウが生育しているむねを聞いており、当日は氏の車で現地へ行き、フナ峠から飯盛峠にかけての車道沿いに高さ1mから3m程度のカラスザンショウが約20本あることを確認した。このうちの数本には *Papilio* 属のものと思われる食こんが見られた。この尾根ではカラスザンショウはフナ峠から飯盛峠の間にしか見られないとのことである。ただし当日は車で通過しながらの確認だったので、歩いて調査すれば刈場坂峠や高山不動あたりでも発見できる

かも知れない。

この尾根から車で伊豆ヶ岳のふもとへまわり花桐でも樹高5mのカラスザンショウを1本確認した。これは谷筋のあまり日当りの良くない所に生育していた。

その後、花桐から久通を経て天目指峠に出たが、この付近では数/0mから4mほどまで生育した50本近いカラスザンショウを発見した。

こうしてみると、この奥武蔵一帯には、かなりの数のカラスザンショウが生育していると考えてよいと思われる。この日はなるべく広範囲を見、まわる目的で車で走りまわったため、詳しい調査はできなかったが、その内にもう一度現地を歩いて調べてみたいと考えている。

お世話になった所沢昆虫同好会の宮倉清氏には紙面をおかりして、あらためてお礼申しあげます。

1980年の寒い夏について

碓 井 徹

1980年の夏は、我々に真の夏らしさを
感じさせないまま終わってしまった。

梅雨明けの頃からマスコミが「夏が来ない」と話題にしはじめ、8月にはいってからは農作物への悪影響が顕著になって、それは話題から深刻な社会問題へと発展した。9月には、特に東北地方におけるイネの凶作が伝えられ、この寒い夏が与えた影響がたいへん大きなものだったことを我々は知らされたのである。

では、どの程度「寒かった」のか？

ここに今年(1980年)の6月下旬から9月中旬までの熊谷市での毎日の平均気温の変化をグラフにしてみた(図. 1)。

比較として、「暑い夏」として話題になった1978年における同質のデータと、1941年から1970年までの30年間の7・8月の月平均気温を図中に示してみた。

1978年の夏は、たいへん暑く、県内でウラギンシジミの夏型や、クマゼミの記録が相次いだ年として記憶に新しい。1941年から1970年まで、過去30年間の7月の月平均気温は24.6℃(図示)、8月のは25.8℃(図示)であり、1978年7月の月平均気温は27.4℃、1980年7月のそれは23.2℃であった。8月についてみると、1978年は28.0℃、1980年は実に22.1℃という月平均気温である。この数値からも、今年の夏は平年に比べて「寒く」、1978年の夏がいかに「暑かった」かを理解することができる。

また、7・8月の積算日照時間を、1978年、1980年、1941~1970年の平均、の三つにわけて図示した(図. 2)。

1980年の7月は、1978年7月の1/2以下、8月は1/3ほどの日照しかなかったわけである。

× × × × ×

この低温と日照時間の少なさが、昆虫に与えた影響は大きなものであらうと考えられるが具体的な例を今ここに示して指摘するのは大変むずかしいと思われる。

確かに、この夏の採集行は東日本において

は惨々な成果であったが、それは「寒い夏」が原因と言うより「晴れない夏」のせいと言えよう。もし、採集日だけ晴れていたとしても、もっと多くの種、もっと多くの個体を目撃できたのではないか。

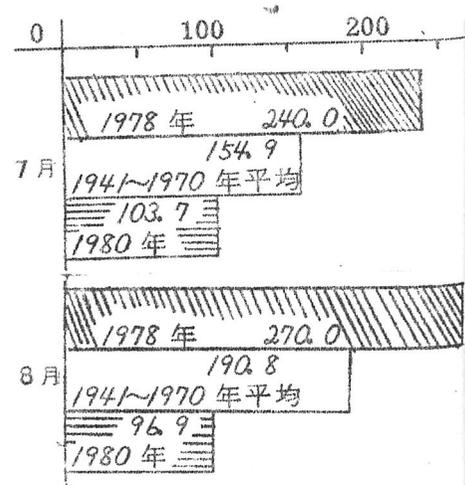
そう考えると、この低温、少ない日照時間が昆虫の成長や生活にどのような影響を与えたのか知ることは簡単なことではない。

ただ、今まで夏の気温とかなり強いつながりを見せていたウラギンシジミ、ウラナミシジミなどについては、平年に比べて著しい個体数の減少を筆者は感じている。筆者の住む上尾市では、今年ウラナミシジミを1頭も目撃しなかった。県内外で8月下旬頃に姿を見せるウラナミシジミは、今年も寒さにめげずちゃんとやって来たのだろうか？

図1・2作成には次の資料を用いた。

1. 埼玉県気象月報 昭和53年6,7,8,9月 昭和55年6,7月 熊谷地方気象台。
2. 熊谷地方気象台気象表 昭和55年8,9月 熊谷地方気象台。
3. 日本気候表 1941-1970 気象庁。

図. 2 7・8月の積算日照時間



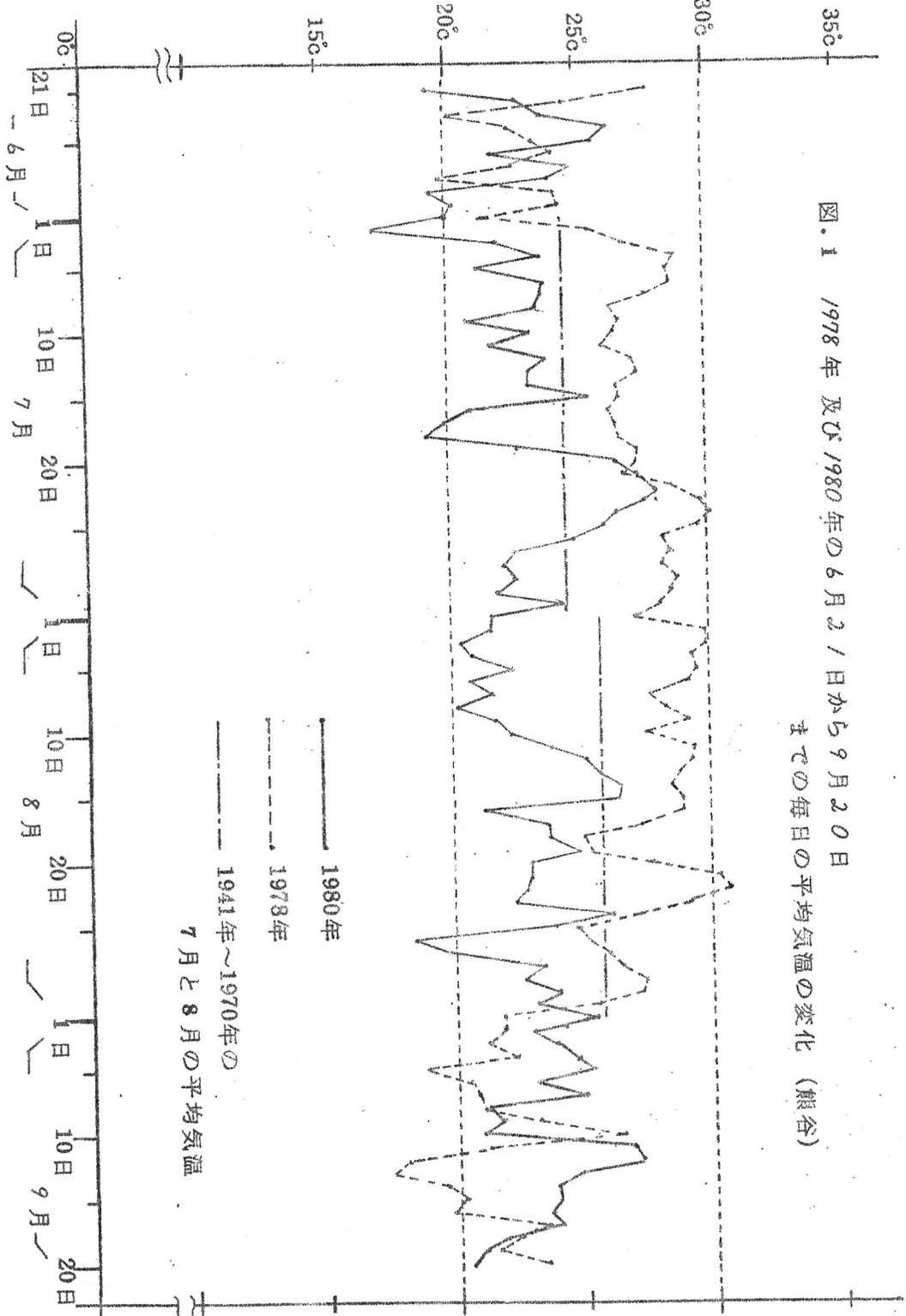


図. 1 1978年及び1980年の6月21日から9月20日までの毎日の平均気温の変化 (熊谷)

浦和市三室のミヤマカラスアゲハ

田 島 茂

浦和市内におけるミヤマカラスアゲハ成虫の確実な記録は、1950年代にはあったようだが判然としない。もちろん幼虫の採集記録などいうまでもなく次の記録が最初のものである。

浦和市三室 幼虫 1980年 9月 2日、
浦和市三室 1♀ 1980年 9月22日 (目撃)

今回の発表は、浦和市三室の山崎地区で1980年9月2日、柴谷肇一氏植栽のキハダに大破した成虫が飛来し産卵したのを確認したことからはじまる (卵数不明)。

早速キハダを調査したところ、葉上に一齢幼虫15頭が発見された。この事実は一校の若葉に集中的に産卵した可能性が、つよく幼虫はその枝にまとまっていた。キハダを与えてシャーレで飼育中、一齢幼虫で4頭が死亡、三齢で1頭、終齢で2頭と合計7頭が死亡した。そこで残った8頭の終齢幼虫から食樹を庭のカラスサンショウに切りかえた結果、意外にも全く抵抗なく好んでカラスサンショウの葉を食し、その後死亡した幼虫は1頭もなく、9月20日に3頭、9月22日に2頭、9月23日に1頭、9月24日に1頭、9月29日に1頭の合計8頭がサナギになった。カラスサンショウがキハダより食樹として適しているということは疑問であるが、少なくとも飼育の場合に限り適した食樹と考えられる。

短 報

ミドリヒョウモン
初夏の記録

山 崎 正 則

秋季の記録が最近多くなった様であるが初夏 (発生期) の記録をしておく。

大宮市島町 1♂ 1980年 6月 7日 (新鮮)。

同 小深作 1♀ 1980年 7月 5日、これはクモの巣に引っかかっていた左前羽を採り確認したものである。

他に秋季にニラの花で吸蜜していたもの
大宮市丸ヶ崎 2exs. 1978年 9月24日。

その後、9月20日ヨウ化の3頭から寄生バエの幼虫が出て、それぞれ10月18日、同22日にバエ (種不明) が羽化した。9月23日ヨウ化の1頭からも寄生バエ1頭がサナギの状態にある。9月29日ヨウ化の1頭は現在体色に変化しつつあるので (10月25日現在) これからも寄生バエが出ることは間違いないと考えられる。

結局、完全なサナギは3頭で、9月22日にヨウ化した1頭から10月13日に初めて「体型は春型、斑紋は夏型で、後ろばねの裏面の白帯が消失した美しい♀の成虫が羽化した。」また、9月22日目撃の♀は完全な個体で、百日草の花で吸蜜していたことを附記しておく。

ミヤマカラスアゲハの浦和市三室の山崎地区における発生の経過を一応述べたが、数年前より土着の可能性も考えられ、いままでにも、それらしき個体を目撃していたが、実際に採集していなかったので発表をひかえていた。しかるに、今回幼虫の採集と飼育に成功したこと、同じ時期に成虫も目撃できたことを発表することができた。

また、単純に考えて、今年の夏は冷夏で文字どおり低温だったため、たまたま南下した成虫の♀個体が当所 (食樹が植栽されている) に産卵したもの、という推測もわずかながら存在する。